仙台市科学館
蒲生調査レポート　速報版

No.278

2021.9.15

〒981-0903　仙台市青葉区台原森林公園4番1号
仙台市科学館　事業係
TEL:022-276-2201　FAX:022-276-2204
http://www.kagakukan.sendai-c.ed.jp/

蒲生干潟の植物⑮

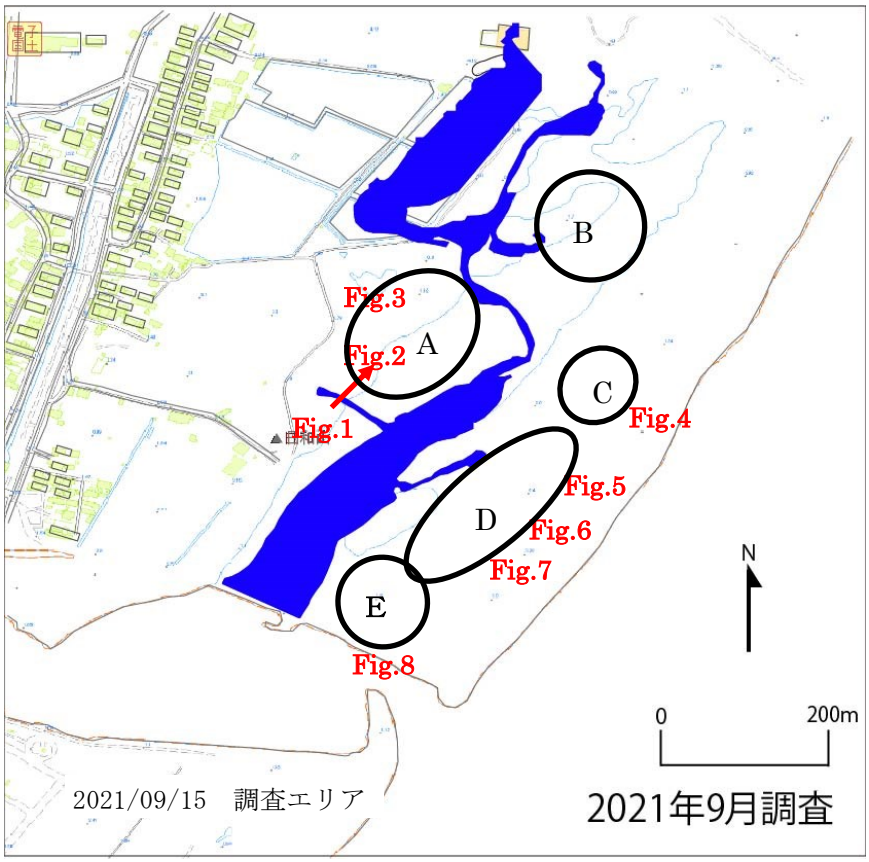

Fig.1　エリアＡを南東側から撮影

Fig.2　エリアＡで撮影

Fig.3　エリアＡで撮影

Fig.4 エリアＣで撮影

Fig.5　エリアＤで撮影

Fig.6　エリアＤで撮影

Fig.7　エリアＤで撮影

Fig.8　エリアＥで撮影

調査日時：2021年9月15日（水）10:00～11:30，天気:晴れ

定点観測では，ハママツナが前回と比べてもあまり背丈は伸びてはおらず，若干茶色になりはじめているように見えた（Fig. 1）。また、エリアＡの北西側に広がるヨシ原では，ヨシの穂が色づきはじめ，周辺のシオクグも面積が広がってきた（Fig. 3）。エリアＣでは，ケカモノハシの群落が目立つようになり，穂が成長していた（Fig. 4）。エリアＤでは，ハチジョウナやガウラが花を咲かせていた。このエリアは，海浜植物でない野草も数多く見られ，季節毎に新たな花と出会える（Fig. 5, Fig. 6）。ハマエンドウやハマヒルガオは順調に生育し，広範囲に渡って葉が広がっていたがまだ花は咲いていなかった（Fig. 7）。そのほか，１本だけのマツやオカヒジキの群落も順調に育っている。オカヒジキは，食用として栽培されているものと比較すると，葉が短く太いため，環境によって生育の仕方に違いがあると思われる。エリアＥに群生しているオニハマダイコンは、枯死し種子ができていた。この種子が来年の群生につながるものと考えられる。また，オニハマダイコンの隙間を埋め尽くすようにエノコログサやメヒシバが生えていた(Fig. 8)。

（宮﨑佳彦）